

看護学生の入学時の期待と満足度の実態

—入学1年後の調査から—

大高 恵美¹⁾ 三浦 睦子²⁾ 佐藤サツ子³⁾

A Study of the Degree of Satisfaction with the College and Entrance Expectations

A Survey of 2nd year Student Nurses

Emi OHTAKA Mutsuko MIURA Satsuko SATOU

要旨：本研究は本学看護学科学生の教育支援に活かすことを目的に、学生の入学経緯、入学時の期待と期待内容、入学1年後の満足度について質問紙による調査を2年次に行った。79の有効回答を集計した結果、以下のことが明らかになった。1. 看護職を志望する動機は「やりがいのある職業だから」、「家族・身近な人の病気体験から」、「人と関わる仕事がしたいから」、「人の役に立ちたいと思ったから」が多かった。2. 本学入学に対し、学生は入学時に「期待していた」が79.8%、「あまり期待していなかった」が8.8%、「どちらともいえない」が11.4%であった。3. 入学時に期待していた内容は「専門的知識・技術を習得すること」、「友人・親友をえること」、「学内の教育設備が整っていること」が多かった。4. 入学時の期待内容に対する入学1年後の満足度は、「友人・親友をえること」、「学内の教育設備が整っていること」、「赤十字について学習できること」、「経験豊かな教員がいること」に「満足」している割合が多かった。

キーワード：看護学生、入学時の期待、期待内容、満足度

Summary : This study was undertaken with the purpose of providing educational support for the Japanese Red Cross Junior College of Akita. The study looked at: entrance circumstances, entrance expectations and contents, and students' satisfaction after one year of study.

By analyzing 79 effective answers, the results were as follows: 1. Nurses motives are "a profession worthy to being engaged", "family or relative's sickness", and "a desire to help others". 2. Upon entrance to this college, 79.8% of the students had good expectations, and 8.8% did not have good expectations. The rest were "undecided". 3. Entrance expectations included: "to learn speciality knowledge and skills", "to make good friends", "to find educational facilities that are available". 4. Entrance expectation areas are: "to make good friends", "to have well-equipped facilities", "to study about the Red Cross", and "to be able to interact with staff who have a wealth of experience".

Keywords : students nurses, entrance expectations, sources of expectations, degree of satisfaction

はじめに

日本赤十字秋田短期大学看護学科（以下、本学とする）に入学してくる学生の多くは、将来、看護職に就くことを希望している。また、入学動機としては、看護婦として社会に貢献したいとか、将来のために資格を得たいなど様々であることが明らかになっている。^{1) 2)}

このような学生たちに対し 看護学科では、平成12年度から各学年にクラスアドバイザーをおき、よりきめ細かな対応をしている。筆者らは昨年、看護学科1年次のクラスアドバイザーを経験し、入学方法や入学時の期待が学習面に影響を与えているのではないかと感じた。また、学生の入学後の気持ちの変化を把握し、学生の特性に合わせた教育支援を行う必要があると考えた。

看護学生の入学時の期待や期待内容、満足度についての調査^{3) 4) 5)}では、3年次や卒業生を対象としており、2年次を対象とした調査はみられなかった。また、本学学生を対象とした入学時の期待と期待内容、満足度に関する調査はみられなかった。

そこで今回、看護学科学学生の教育支援へ活かすことを目的に学生の入学経緯、入学時の期待と期待内容、1年後の満足度について調査をしたので報告する。

<用語の操作的定義>

クラスアドバイザー：学生の学習の支援と悩み事等の相談窓口である。

身近な看護職：血縁関係の有無を問わず、学生の交友関係を指す。

I. 研究目的

看護学科学学生の教育支援へ活かすことを目的に学生の入学経緯、入学時の期待と期待内容、入学1年後の満足度を明らかにする。

II. 研究方法

1. 調査対象及び時期：日本赤十字秋田短期大学看護学科2年次81名。平成13年4月実施。
2. 調査方法：自作の質問紙を用いた集合調査。被験者には、調査の目的を説明し、了解を得た上で実施した。
3. 調査内容は、1) 学生の背景（入学方法、身近な看護職の存在）、2) 入学経緯（看護職志望動機、看護職志望決定時期、本学への入学決

定方法）、3) 卒業後の進路希望、4) 入学時の期待は「期待していた」、「あまり期待していなかった」、「どちらともいえない」の3段階で質問した。5) 入学時の期待内容は12項目設定し、各項目の期待の有無をたずねた。6) 入学時の期待内容に対する入学1年後の満足度は「満足」、「不満」、「どちらともいえない」の3段階で質問した。

4. 集計・分析方法：（1）調査内容1）～6）は単純集計した。（2）入学時の期待と入学方法の間でクロス集計をおこなった。

III. 結果

回答者数は79人、回収率は97.5%であった。

1. 対象の背景

1) 入学方法

入学方法は、推薦入学41名（女子39名、男子2名）、一般入学34名（女子33名、男子1名）、社会人入学4名（女子3名、男子1名）であった。

2) 学生の身近な看護職の存在

自分の身近に看護職が「いる」は42人（53.2%）、「いない」は37人（46.8%）であった。（図1）

「いる」の内訳(複数回答)は、「叔母」が26人（46.4%）と最も多く、次いで「知人」が17人（30.3%）、「母親」が8人（14.3%）、「姉」が2人（3.6%）、「祖母」が1人（1.8%）であった。家族や親戚が37人（66.1%）を占めていた。（表1）

図1 身近な看護職の存在

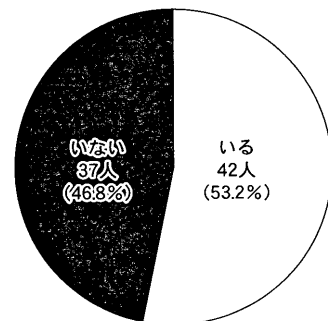


表1 身近な看護職の内訳

看護職	人数 (%)
母親	8 (14.3)
姉	2 (3.6)
祖母	1 (1.8)
親戚	26 (46.4)
友人・知人	17 (30.3)
その他	2 (3.6)
計	56 (100)

N=42 (単位:人数 複数回答)

3) 看護職選択に対する身近な看護職の賛否

学生が看護職を選択したことに対し、身近な看護職は「賛成」が40人(71.4%)、「反対」が2人(3.6%)「どちらでもない」が14人(25%)であった。家族や親戚は「賛成」23人(62.2%)、「反対」2人(5.4%)、「どちらでもない」12人(32.4%)であった。(表2)

表2 学生の看護職選択に対する身近な看護職の賛否

看護職	賛否		
	賛成 人数 (%)	反対 人数 (%)	どちらでもない 人数 (%)
母親	6 (75.0)	1 (12.5)	1 (12.5)
姉	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0)
祖母	1 (100)	0 (0)	0 (0)
親戚	15 (57.7)	0 (0)	11 (42.3)
友人・知人	15 (88.2)	0 (0)	2 (11.8)
その他	2 (100)	0 (0)	0 (0)
計	40 (71.4)	2 (3.6)	14 (25.0)

N=56 (単位:人数)

2. 入学経緯

1) 看護職志望動機について

看護職志望動機は12項目設定し、1人に3項目を選択してもらった。総回答件数は232件であった。内訳は「やりがいのある職業だから」が32件(13.8%)と最も多く、次いで、「家族・身近な人の病気体験から」29件(12.5%)、「人と関わる仕事がしたいから」28件(12%)、「人の役に立ちたいと思ったから」27件(11.6%)であった。(表3)

表3 看護職志望動機

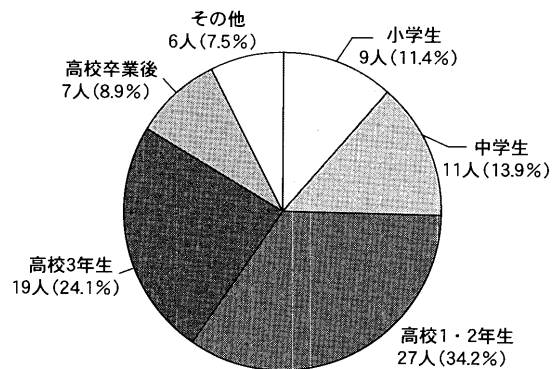
動機	件数 (%)
やりがいのある職業だから	32 (13.8)
家族・身近な人の病気体験から	29 (12.5)
人と関わる仕事がしたいから	28 (12.0)
人の役に立ちたいと思ったから	27 (11.6)
一生続けられる職業だから	23 (9.9)
収入が安定しているから	23 (9.9)
医療関係のドラマ・本の影響から	18 (7.8)
経済的に自立できるから	15 (6.5)
自分の病気体験から	12 (5.2)
幼い頃からの夢・あこがれから	12 (5.2)
社会に貢献したいから	3 (1.3)
その他	10 (4.3)

N=232 (単位:件数)

2) 看護職志望決定時期について

看護職の志望を決定した時期は「高校1・2年生」が27人(34.2%)と最も多く、次いで「高校3年生」19人(24.1%)、「中学生」11人(13.9%)、「高校卒業後」7人(8.9%)であった。学生の58.3%は高校在学中に看護職になることを決めていた。(図2)

図2 看護職志望決定時期

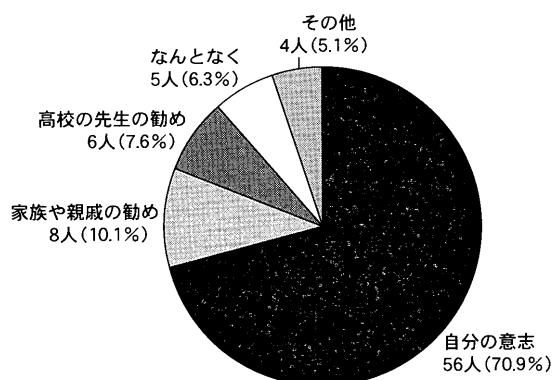


3) 本学への入学決定方法について

本学への入学を決めた方法は「自分の意志」が56人(70.9%)、「家族や親戚の勧め」8人(10.1%)、「高校の先生の勧め」6人(7.6%)、「なんとなく」5人(6.3%)、「その他」4人(5.1%)であった。

学生の17.7%は、周囲の人の勧めで、本学への入学を決めていた。(図3)

図3 本学への入学決定方法



3. 卒業後の進路希望について

卒業後の進路希望は、「看護婦（士）として就職」が50人（63.3%）、「助産婦課程へ進学」6人（7.6%）、「養護教諭課程へ進学」4人（5.1%）、「保健婦課程へ進学」3人（3.8%）、「看護系大学へ編入」3人（3.8%）、「未定」が12人（15.1%）であった。学生の83.6%は2年次開始時に卒業後の進路を決めていた。（表4）

表4 卒業後の進路希望

卒業後の進路	件数 (%)
看護婦（士）として就職	50 (63.3)
助産婦課程へ進学	6 (7.6)
養護教諭課程へ進学	4 (5.1)
保健婦課程へ進学	3 (3.8)
看護系大学へ編入	3 (3.8)
看護系以外の大学へ編入	0 (0)
未定	12 (15.1)
その他	1 (1.3)

N=79 (単位：件数)

4. 入学時の期待と期待内容

1) 入学時の期待

本学入学に対し、「期待していた」が63人（79.8%）「あまり期待していなかった」が7人（8.8%）、「どちらともいえない」が9人（11.4%）であった。

入学方法別に見ると、推薦入学者は「期待していた」が37人（90.2%）、「あまり期待していなかった」が2人（4.9%）、「どちらともいえない」が2人（4.9%）であった。一般入学者は「期待していた」が22人（64.7%）、「あまり期待していなかった」が5人（14.7%）、「どちらともいえない」が7人（20.6%）であった。

社会人入学者は全員が「期待していた」であった。（表5）

表5 入学時の期待と入学方法

入学方法	推薦入学 n=41	社会人入学 n=4	一般入学 n=34
入学時の期待			
期待していた	37(90.2)	4(100)	22(64.7)
あまり期待していなかった	2(4.9)	0(0)	5(14.7)
どちらともいえない	2(4.9)	0(0)	7(20.6)

N=79 [単位：人数 (%)]

2) 入学時の期待内容

期待していた内容の中で一番多いのは「専門的知識・技術を習得すること」72人（91.1%）、次いで、「友人・親友をえること」51人（64.6%）、「学校内の教育設備が整っていること」46人（58.2%）であった。

期待している内容の中で少なかったのは「親や周囲の人から認められること」14人（17.7%）、「自由を満喫すること」17人（21.5%）、「経験豊かな教員がいること」18人（22.8%）であった。期待内容が「特にない」と答えた学生はいなかった。（表6）

表6 入学時の期待内容

期待内容	件数 (%)
専門的知識・技術を習得すること	72 (91.1)
友人・親友をえること	51 (64.6)
学校内の教育設備が整っていること	46 (58.2)
一般・基礎的教養を身につけること	37 (46.8)
自己の生き方をみつけること	36 (45.6)
クラブ・サークル活動を楽しむこと	30 (38.0)
赤十字について学習できること	26 (32.9)
経験豊かな教員がいること	18 (22.8)
自由を満喫すること	17 (21.5)
親や周囲の人に認められること	14 (17.7)
その他	1 (0.3)
特にない	0 (0)

N=79 (単位：人数 複数回答)

5. 入学1年後の期待内容に対する満足度

入学時の期待内容に対する1年後の満足度をみると、「満足」と答えた割合が多かったのは、「友人・親友をえること」、「赤十字について学習できること」、「学校内の教育設備が整っていること」、「経験豊かな教員がいること」であった。（表7）

入学時に最も期待していた内容である「専門的知識・技術を習得すること」は「満足」が36人(50%)「どちらともいえない」30人(41.7%)、「不満」6人(8.3%)であった。

IV. 考察

1. 入学までの経緯

学生の看護職選択に対し、身近な看護職の多くが賛成していることが明らかになった。このことは、学生が在学中に学校生活や学習面で悩んだ場合に身近な看護職は先輩として、学生の相談にのることができる心強い支援者の存在と考えられる。しかし、身近にこのような人が存在しない学生には、教員がその役割を担い、学生を支援していく必要があると考える。

また、今回の調査では身近な看護職の存在と学生の看護職選択の関係は明らかではないが、半数以上の学生の身近に看護職が存在していたことから、学生の職業選択について何らかの影響を与えていると思われる。

看護職志望動機は「やりがいのある職業だから」「家族・身近な人の病気体験から」、「人と関わる仕事がしたいから」、「人の役に立ちたいと思ったから」が多かった。この結果は本学2・3期生を対象とした酒井らの調査^{1) 2)}と同様の結果であった。

また、看護職志望決定時期は、高校在学中が、最も多かった。この結果は、看護学生の看護職に着くことを決めた時期を調査した奥村ら⁶⁾と

同様の結果であった。

2. 入学時の期待と期待内容

本学入学に対し、入学時に学生の79.8%が期待していたことが明らかになった。西郷⁷⁾によれば看護大学生は「学ぶことを選択する段階(受験決定時)で、すでに卒業後の進路が決定しやすく、学ぶ目的、目標がはっきりしやすいという特徴がある」と述べている。このことから、入学時に本学で学ぶことに期待していた学生は、明確な目的意識をもって入学してきていると考えられる。

一方、「あまり期待していなかった」と「どちらともいえない」をあわせると推薦入学者の9.8%、一般入学者の35.3%の学生が、入学時に本学で学ぶことにあまり積極的に期待していないのではないかとと思われる。これは、田上⁸⁾が「入学理由の不明確さ、入学に不本意感のある場合、入学後比較的早期から違和感を感じたり、意欲を失ったりする」と述べていることから、本学への入学決定方法や看護職志望動機等の経緯が入学時の期待に影響を与えているのではないかとと思われる。このような学生たちに対し、教員は学生自らが看護を学びたいという気持ちを増幅させるような教育的働きかけを入学後早期から行う必要があると考える。

入学時の期待内容では「専門的知識・技術の習得」が最も多かった。これは看護学生の入学時の期待内容を調査した黒坂⁵⁾と同様の結果で

表7 入学時の期待内容と1年後の満足度

入学時の期待内容	1年後の満足度		
	満足 人数 (%)	不満 人数 (%)	どちらともいえない 人数 (%)
専門的知識・技術を習得すること	36 (50.0)	6 (8.3)	30 (41.7)
友人・親友をえること	47 (92.1)	1 (2.0)	3 (5.9)
学校内の教育設備が整っていること	34 (73.9)	2 (4.3)	10 (21.8)
一般・基礎的教養を身につけること	25 (67.6)	3 (8.1)	9 (24.3)
自己の生き方をみつけること	17 (47.3)	5 (13.8)	14 (38.9)
クラブ・サークル活動を楽しむこと	15 (50.0)	7 (23.3)	8 (26.7)
赤十字について学習できること	21 (80.8)	1 (3.8)	4 (15.4)
経験豊かな教員がいること	13 (72.2)	3 (16.7)	2 (11.1)
自由を満喫すること	10 (58.8)	2 (11.8)	5 (29.4)
親や周囲の人に認められること	6 (42.9)	1 (7.1)	7 (50.0)
その他	0 (0)	0 (0)	1 (100)
特になし	0 (0)	0 (0)	0 (0)

N = 79 (単位: 人数 複数回答)

あった。本学においても学生は看護職業に就くために必要な知識と技術の習得を優先しているといえる。

次いで、「友人・親友をえること」が多かった。この理由としては、同じ目的を持った仲間との人間関係に期待していると考えられる。しかし、その反面、中西⁹⁾が「青年期前半において仲間との連帯感を喪失し、疎外されることが最も大きな危機となる」と述べているように、新しい学校生活での人間関係に対し不安をいただいているのではないかと思われる。

3. 入学1年後の満足度

入学1年後の満足度をみると、「満足」と答えた割合が最も多かったのは、「友人・親友をえること」であった。この理由については、本学は、開学以来、新入学生相互と教職員との親睦を図ることを目的に4月に新入生交流会を実施している。交流会後の調査でも『友達ができた』という意見が多いことから、学生の間関係の形成に新入生交流会が役立っているのではないかと考えられる。また、学生の交友関係は入学後1年間に概ね形成され、満足度が高いことから、学生間でよい人間関係が保たれていると思われる。

入学時の期待内容としては少なかったが、「経験豊かな教員がいること」や「赤十字について学習できること」の満足度が高かった。また、「学校内の教育設備が整っていること」の満足度も高かった。このことから、教員の教育活動や本学の教育環境が支持されていると考える。

しかし、入学時に最も期待していた内容である「専門的知識・技術を習得すること」は、「満足」している学生が半数であり、「どちらともいえない」と答えた学生が41.7%であった。この理由としては、本学のカリキュラムでは、主な専門科目の講義が2年次に集中しているため、調査時には十分に学習が進んでないことから評価しにくかったのではないかと、また、1年次末に実施された基礎看護学実習の体験から、より専門的知識・技術の必要性を感じたためではないかと考えられる。この点については、今後さらに継続した調査を行い学生の満足度を把握していきたいと考える。

本研究の限界は、入学時の期待を2年次に調査しており、入学後の体験の良否が結果に影響していることが考えられる。また、1学年の調査であ

るため、一般化できないことである。

今後はこの調査結果をもとに、教育支援の具体的な方法や時期について検討していきたい。

結論

本学学生の入学経緯、入学時の期待と期待内容、入学1年後の満足度に関する調査を行い、以下のことが明らかになった。

1. 看護職を志望する動機は「やりがいのある職業だから」が最も多く、次いで、「家族・身近な人の病気体験から」、「人と関わる仕事がしたいから」、「人の役に立ちたいと思ったから」が多かった。
2. 学生は本学入学に対し、入学時、「期待していた」は79.8%、「あまり期待していなかった」は8.8%、「どちらともいえない」は11.4%であった。
3. 入学時に期待していた内容は「専門的知識・技術を習得すること」、「友人・親友をえること」、「学校内の教育設備が整っていること」が多かった。
4. 入学時の期待内容に対する入学1年後の満足度は「満足」と答えた割合が多かったのは、「友人・親友をえること」、「赤十字について学習できること」、「学校内の教育設備が整っていること」、「経験豊かな教員がいること」であった。

おわりに

本研究にご協力くださった本学看護学科2年次生の皆様に心よりお礼申し上げます。

引用文献

- 1) 酒井志保他：看護学生の受験理由と看護学科選択理由に関する実態（第2報）－本学看護学科2期生の入学時調査から－，日本赤十字秋田短期大学紀要，No 2，p33，1997
- 2) 酒井志保他：本学看護学科学生の学校及び看護学科選択理由の検討－本学看護学科3期生と2期生の入学時調査を比較して－，日本赤十字秋田短期大学紀要，No 3，p50，1998
- 3) 黒坂知子：本学学生の学校生活の実態－その1－私立医科大学系（東京）看護専門学校6校との比較－，東京医科大学看護専門学校紀要，第10巻第1号，p41，2000
- 4) 黒坂知子：本学学生の学校生活の実態その2－私

- 立医科大学系（東京）看護専門学校6校との比較－，東京医科大学看護専門学校紀要，第11巻第1号，p21，2001
- 5) 一戸とも子他：弘前大学医療技術短期大学部看護学科卒業生の追跡調査（2）－看護教育と学校生活への評価－，弘前大学医療技術短期大学部紀要，第23号，pp40-41，1999
- 6) 奥村潤子他：日本赤十字愛知短期大学における看護の進路選択動機と入学動機－1998年度入学生と1999年度入学生の比較－，日本赤十字愛知短期大学紀要，第11号，p17，2000
- 7) 西郷淳子他：本学生が看護を学ぶことを決定した動機，聖路加看護大学紀要，Vol15，p84，1989
- 8) 田上美千佳：N看護大学生の学生生活・意欲についての内的体験，日本赤十字看護大学紀要，No8，p39，1994
- 9) 中村信男編：人間形成の心理学，p68，ナカニシヤ，1998

参考文献

- 岩田浩子：看護学生の学生生活に関する意識－職業的社会化に関する要因と学生生活満足度－，看護教育，38（5），pp370-375，1997
- 松丸修三、渡辺弘：「援助」としての教育を考える，川島書店，1998
- 見藤隆子：人を育てる看護教育，医学書院，1996
- 森ウメ子：学校生活における学生の気持ちの推移に関する検討－本学生の入学1年間の経過から－，奈良県立医科大学看護短期大学部紀要，VOL5，pp91-98，2001